

# 土とふれあうコト、それはお客様を想うコト 「大地と未来をつなぐ」肥料事業

## 理念

肥料事業部は大国グループの心です。

「食を通じて人々の健康と幸せに貢献します」を実践し、美味しい野菜、果物、穀物の生産と流通の為に微生物の力を最大限に引き出し、豊かな土壌造りにこれからも取り組んでまいります。私達ひとりひとりの力は弱く、ひとりひとりの声も小さく、ひとりひとりの気持ちも弱いものですがみんなが力を合わせ同じ方向に向かうなら私たちの思いは少しずつ実りを付けいくものと信じています。

美味しい野菜や果物を届けたい  
だから自分たちで農園をはじめました

おいしい農産物はどこで仕入れることができるのだろうか？  
どんな人がどこで作っているのだろうか？  
安定して販売できるにはどうしたらいいのだろうか？  
「美味しい野菜を、果物を食べたい」というお客様の潜在的要望は多く、それなら自分たちで作ろうと自社で農業生産法人を立ち上げ、同時に肥料の開発に取り組むことを始めました。

自然を想う、大国酵素肥料とは？

大国酵素肥料は幾種類もの有機物原料で構成され土壌中に多くの微生物が集まり、その微生物が出す酵素が、たんぱく質や炭水化物をアミノ酸や糖に分解し団粒構造の土壌を生み出します。チヌ素・リン酸・カリウムやその他の微量要素も含まれており、植物の成長に必要な自然環境の条件を整えることが出来ます。  
大国酵素肥料を施し地力がアップした圃場は殺虫剤による土壌殺菌をしなくても、根コブ線虫や連作障害を防ぎ、ミミズなど小動物の沢山いる自然環境の整った良質の土壌が出来上がります。



大豆酵素低温有機発酵肥料(1号・2号)

農園で学んだ土の重要性  
だから自分たちで肥料を開発しました

味にこだわった農産物を作るには土壌に数種類もの有機物を施し、多くの微生物が活躍できる環境を作る必要がありました。様々な課題の解決にむけて肥料開発に取り組むはじめました。

こだわりの肥料開発

私たちの肥料工場では原料や出荷前の肥料に高電圧による特殊電界処理をして、お味噌のように嫌気性菌の力で低温発酵させた腐敗しない低温発酵肥料を製造しています。

課題があるかぎり  
私達はあきらめない

現在の農業において、土作りには多くの労働力と時間を必要とし、出来た農産物は自分で価値を伝え販売しなければ安定した収入を得にくいことなど事業として成り立つための大きな課題を今日まで残しています。私達は【土作りの技術と労働力と時間】【生産物の販売ルート確保】という課題を、全国の農業生産者様と連携し、その課題を解決できる仕組み作りに取り組んでまいります。

## J A あいち中央 みどりの恋人胡瓜部会

### 部会の歴史

J A あいち胡瓜部会の歴史は古く50年以上にもなります。現在ではその胡瓜部会の中でお互いに技術の交換・研鑽をしあう仲間で「みどりの恋人胡瓜部会」を立ち上げ毎月勉強会を行っています。



### 連作障害

1960年代から1980年代頃までの栽培方法は国の指導の下愛知県農業試験所や農業改良普及所を中心に技術指導を受けながら栽培を進めておりました。これらの栽培方法は10年間程度は収益も出ておりましたが、10年以上経過した頃より病害虫の多発や収穫量の減少などの問題が発生してまいりました。

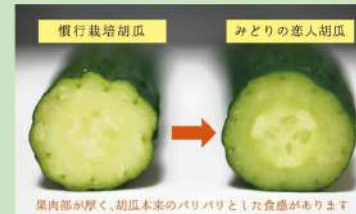


### 課題対策

この連作障害を克服する為、胡瓜生産農家は土壌の専門家や微生物の専門家を訪ね全国の情報を取り入れ土壌の改良に力を注ぎました。

### 改善策

そんな中、現在部会のリーダーでもある浅岡様が23年前に大国酵素低温有機発酵肥料の前身であった熊本県の会社が製造する有機発酵肥料と出会い試験的に使用を試みたところ、1年目でこれまでに無く土壌が良くなり胡瓜の生育が大きく変わったと感じたそうです。



果肉内部が厚く、胡瓜本来のバリバリとした食感があります

